

ドローンを活用した水稲（飼料用）直播栽培の実証

取組主体 JA新いわて（岩手県）

取組概要

- JA新いわてとJA全農が連携し、農家の手取り20%アップを目指す「農家手取り最大化プロジェクト」のモデルとなった経営体から、水稲栽培でのさらなる省力化や飼料用米の安定生産が課題としてあげられていた。
- 当該経営体では、今後の規模拡大に対応するため、育苗作業を省くことができるドローンによる直播をうまく組み合わせながら、作業分散を図っていく計画。
- このため、当該経営体は、全農岩手県本部と連携し、ドローンによる水稲直播（鉄コーティング散播）の実証試験を岩手県内で初めて実施。
- 実証結果をJA広報誌等に掲載し、地域内での横展開を図っている。

実証時期		2020年5月
対象作物・実証面積		水稲（飼料用米） 78a
使用ドローン		D J I 製 MG-1、S A
使用種子		鉄コーティング種子
春作業時間 (分/10a)	慣行移植	4.05時間/10a
	ドローン	0.82時間/10a

80%の削減効果

取組結果

- 通常移植の春作業（播種 + 育苗）4.05時間/10aと比較すると、鉄コーティング散播（コーティング + 播種）では0.82時間/10aとなり、80%の削減効果が見られた。
- 飼料用米「たわわっこ」の品種特性に対応して播種量を増量した結果、1平方メートルあたりの苗立ち本数は163本となった。



写真：ドローンが散播する様子



写真：播種に用いたDJI製ドローン